

天真園における太極図の意義

—修行過程で生じる身体変容との相関—

丸山 貴彦

はじめに

中国の首都北京から南東に約 50 キロ、北京と天津のほぼ中間に位置する武清区城関鎮という町に、中国古代から伝えられてきたとされる伝統文化の継承を目的とする特殊な教育施設が存在する。

その名は「天真園」。無形文化財である李氏太極の第四代継承者である那起林氏と、その妻がかつては科学者であった崔愛玲氏によって、2000 年に創設された。この天真園で伝承されている伝統文化とは、「天人相関」の思想をベースとする「太極文化」と呼ばれるものである。詳細については後述するが、それは太極原理に基づき、太極図を核心としながら、人と人、人と自然、人と天などの様々な関係における「和」（調和）を志向する文化であり、天真園のすべての活動はその太極文化を拠り所として営まれている。つまり、天真園は太極文化が内包する伝統的な智慧やエッセンスを次世代のために継承し、さらには世界中に向けて広く発信するための活動拠点というわけである。

筆者が初めてこの施設を訪れたのは、今から約 3 年前の 2017 年 10 月末。旧暦の 9 月 9 日（重陽節）に合わせて重要な記念イベントが開催されるということで、それまで数年にわたって交流のあった倫理研究所の丸山敏秋理事長が招待されたことから、筆者もそこに同行させてもらうことになった。というのも、筆者の専門分野は教育学で、とりわけ「文化」をテーマとして扱う教育実践に関心を抱いていたため、天真園の独自かつ特殊な教育活動には以前から魅力を感じていた。この初訪問は 3 泊 4 日という短期間であったが、この機会に天真園で伝承されている太極文化とその修行の一端に触れた筆者は、それまでに抱いていた興味関心がより一層強まるのを 実感し、本格的に学んでみたいと思うに至った。そして翌年の 2018 年 3 月と 8 月、日本人初の留学生として受け入れてもらい、それぞれ約 1 ヶ月間を現地で過ごしながら、その文化の原理や内容等について学び始めることとなったのである。

現在、天真園は国内外の教育関係者から注目を集めるようになり、連日多くの訪問客がいるという。しかし、今のところ天真園と太極文化について整理された資料や先行研究等はほとんどなく、その実態についてはあまり詳しく知られていない。そこで本稿は、手に入った数少ない限られた資料や現地で収集した情報などをもとに、天真園と太極文化の関係を明らかにし、その上で、太極文化の核心である太極図と修行過程で生じる身体変容との相関について考察することを目的とする。

なお、天真園と太極文化の概略については、倫理研究所の丸山敏秋理事長が月刊誌『倫理』の中で「訪問記」としてすでに記しているため、その内容の一部は重複するが、本稿では具体的な修行プロセスを新たな視座として追加し、論じることにはしたい。